海に浮かぶ森　東京の異空間
御蔵島
教育の原点　碧地教育

御蔵島村教育委員会

御蔵島の概要

◆位置　東京から南へ約２００㎞、伊豆諸島のほぼ真ん中に位置する。周囲約 16 ㎞の小離島。交通は東京から毎日の大型客船があるが欠航も多い。（特に冬場）ヘリコプターは八丈島と三宅島を毎日 1 便ずつ結ぶ。住民は国境離島制度及び村の補助等で都内などへの交通費は大幅な割引で利用できる。

◇人口　２９０人(7/1 現在)　人口は横ばい、若い人の U･I ターン、また若い人の移住が見られる。（イルカウオッチングの始まった２５年ほど前からこの傾向がみられる）子どもの数も人口の割に多いが、今後減少傾向となっている。

◆生活　学校、役場及び関連業務、郵便局、農漁協、観光協会、建設業、民宿、商店、理療、福祉関係、イルカ観光業などが島内の主な仕事。漁業、農業等のみで生活している者はいない。最近はイルカ業が主要な産業であるが船の数も減少している。

生活物資はネットで購入も多い。生鮮食品、日用雑貨などは村内にある 2 件の商店、農魚協の売店で購入。飲み屋は１軒。お土産・ジェラート販売店 1 件。郵便局が唯一の金融機関である。保育園。診療所。

◇自然

海に流れ落ちる白滝

１００万羽のオオミズナギドリの繁殖地、約３００人の人々、１５０頭のイルカが主な「住人」である。川が流れ滝も落ち、森は深く峡谷は険しく、巨樹が多い。山は伊豆諸島で２番目に高く、亜熱帯から亜高山帯の植物やミクラミヤマクワガタなどの固有種なども見られ「海に浮かぶ森」とも表現される東京都の異空間。屋久島の小型版と言い表されることもある。

◆観光　東京都版エコツーリズムの島として貴重な自然が多く残されトレッキング及びイルカウオッチングには認定ガイドの同行を義務付けている。約１５０頭のイルカは、２５年以上にわたる個体識別調査ですべて名前がついている。観光客のほとんどはイルカウオッチング目当てのリピーターが多い。宿泊施設は７軒＆バンガロー（冬季閉鎖）しかなく年間を通して予約を取るのが難しい。

約 150 頭のイルカが棲む

◇歴史　縄文時代早期(5,6千年前の住居址あり)より人が住んでいた。流人や船の漂着などの話も多く、名所旧跡があちこちにみられる。特に幕末に４８０名の外国人を救助した「黒船バイキング号漂着事件」の話は東京都の道徳資料集や高校の教科書に採用された。

学校の概要

御蔵島は昔から学校教育に熱心で、伊豆諸島では最も早く明治１１年に学校を開設。子どもは「島の宝」として、村役場では学用品、給食、修学旅行、遠足・移動教室、教科活動費など保護者が負担する教育費のほぼすべてを負担している。

島で一番大きな建物

昭和 50 年に小学校と中学校が一つの校舎として新設落成された。その後平成 12 年に新校舎、新体育館、新プールが建て替えられ、校舎はひな壇式６階建てで小学校、中学校の合同校舎の併設校である。体育館は１階が温水プールで２階が体育館となっている。ランチルームは全校児童生徒、教職員が一同で給食をとっている。自校方式の給食は作りたてで児童生徒はもちろん教職員にも好評である。校庭は平成 20 年度に全面芝生化し、平地のほとんどない島では放課後や休日など島の人の利用も多く公園的役割を果たしている。教職員住宅は３か所あり、学校まで徒歩３～２０分以内である。

１５歳の旅立ちまで

本年度は小学校２４名、中学校１１名の在籍となった。教職員は２７名である。本校は小中併設校であり小中も同じ職員室である。都教委により教員には小中の兼務発令を行い、授業など小中学校の垣根を越えて９年間を見通した教育活動を行っている。ほとんどの学校行事が小中学校合同である。「小中一貫教育」の流れが注目されている昨今、教材研究、指導方法、子どもを視る視点の幅など教員としてスキルを広げる環境が既にあり、児童生徒も小中の多彩な専門性をもった教員と接し学ぶことができる。

高校の無い島なので、中学校を卒業すると 15 歳で島を出て親元を離れる「15 歳の旅立ち」に向けて、島民の学校教育への期待や責務は大きいところがある。

児童生徒数

	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
７年度	３	６	５	３	４	３	５	１	５

「碧地」教育でありたい

島にはコンビニもスーパーもない、朝晩の天気予報が必見の自然と共に生きるシンプルな生活となる。学校の門を出ても先生として見られ、少々わずらわしさもあるかもしれない。ほぼみんな知り合いで、地域全体で子どもを大切にしていく風土があり、素朴な子どもたちを取り巻いている。

このような環境からか「教育の原点はへき地にあり」と言われる。情報化社会、目まぐるしく変わる教育環境においても、人が人を育てる根源の精神は大切にしたい。それを感じながら教員として働ける場がへき地には都会よりあるように思われる。ゆえに都会と比べて「僻地」ではあるが、地域の良さ・厳しさを知り、御蔵島でこそできる教育環境を生かした「碧地教育」を目指したい。